

えびぞり

2

立川と語ろう 立川に生きよう
February 2004
écoutez bien Vol.22 No.231



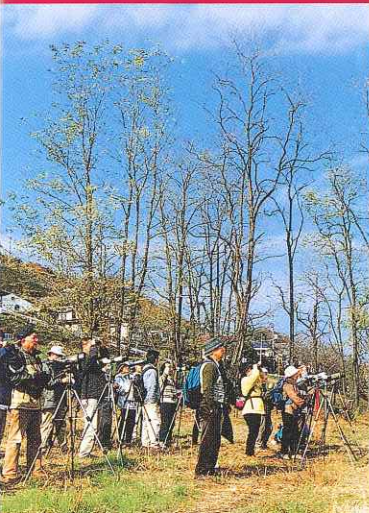
表紙の人 葛野忠正(宮上見明)
写真 細江英公



多摩川は四季を通じて多くのいのちを育む。
 多くの野鳥も水辺や岸の茂み、周囲の雑木林や山々に集まる。
 落葉して林の見通しが良くなる冬は、野鳥観察に最適のシーズンだ。

川と林と鳥と

羽村堰周辺のバードウォッチング



写真：中村 伸



冬枯れの川原とその周辺
 に多くの野鳥が集まる



双眼鏡とフィールド
 スコープが探鳥会の
 スタイル



日本野鳥の会奥多摩支部（鈴木君子支部長）は月1回、羽村堰周辺で定期探鳥会を行っている。玉川兄弟の像の前に集合し、羽村堰下橋を渡って右岸を歩いて下流の永田橋で再び左岸に渡って上流へ。昼頃までの約3時間だが、多彩な野鳥が見られる。

同行した日の探鳥会では、冬によく見られるカモ類、モズ、ホオジロ、ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、シメ、イカル、カワラヒワなど、さらにカワセミ、アオゲラ、コゲラ、セキレイ類、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カイツブリ、サギ類……合計35種が観察できた。

熟練した会員の眼が素早い飛影や高い梢の野鳥をたちまち見分ける。珍しい種には思わず歓声も上がる。水辺と姿を隠せるヤブ、雑木林、さらに周辺に広がる丘陵などが羽村堰周辺に多くの野鳥が集まる環境をつくっているという。いたるところで開発に追われながら、鳥たちは川をよりどころに、けなげに生きている。

地域に役立ってこそその信用金庫なのです。



創立70周年 多摩中央信用金庫理事長
佐藤 浩二さん

■佐藤浩二 (KATSUMI・KOJI) / 昭和17年(1942) 東京都生まれ。昭和41年(1966)に早稲田大学商学部を卒業して多摩中央信用金庫に入庫。吉祥寺支店長、国立支店長、本部総合企画室長、常勤理事、常務理事を経て平成13年(2001)より、第6代の理事長をつとめる。

■芳賀敏博 (はが・としひろ) / えくてびあんの編集人

於：曙町・多摩中央信用金庫本店
写真：宮保大輔

芳賀 多摩中央信用金庫、というより「たましん」さんと呼んだ方がしっくりするのでお許しを願いますが、たましんは昨年12月26日に前身の立川信用組合以来創立70周年を迎えました。それを機会に多摩地域の企業を対象に多摩ブルー・グリーン賞という賞を設けられましたね。まずこの賞のことからお聞きしましょう。

佐藤 ブルーは多摩川の水の青、グリーンは多摩の山野というイメージなんです。ブルーは優れた技術を、グリーンは優れた経営で周囲に役立つビジネスモデルを評価しようという賞です。中小企業が技術力を評価されることで励みになったり、多摩の中小企業が努力して経営モデルを確立することにつながれば、70周年を記念して始めました。

芳賀 お金には縁がなく金融機関のことはほとんどわからないんですが、お借りして観た70周年記念ビデオのタイトルが「多摩のあゆみとともに」。図書館で見つけた40周年(昭和58年)の記念誌も同じタイトルでした。たましん地域文化財団が出している雑誌も『多摩のあゆみ』。地域とともに歩いていく、地域の企業を育てるという姿勢がタイトルに表れているようです。

佐藤 「育てる」なんておこがましい。われわれの方が育てていただいたんです。常にお客様とともに、多摩の地域とともにあるということが一番大事で当たり前のことなのですが、今こういう時代になると、なおさら切実です。堅い話ですが、それを忘れて金融機関として大

銀行と同じようにやっていこう、やらざるを得ない時期がありました。十分に地域を考えて来なかった反省があります。反省だらけですね。

芳賀 そういえば、創立の昭和8年も昭和金融恐慌後の厳しい時代だったとか。

佐藤 昭和5年に設立を申請したのになかなか資金が集まらない。猶予期限ぎりぎりの8年末になってようやく設立したんです。しかし地域の人たちが集まってどうしても自分たちの金融機関がないと困る、自分たちの金融機関を作りたいということで立ち上げた設立趣意書にはっきりと謳われています。そういうところは今の時代と似ている。われわれも地域の問題を解決するために存在しているんだということです。逆に地域に貢献できなければ消えていかなければならない危機感があります。消えても地域の人々にとって本当に必要なものは別の形でできる。昭和初期にそういうことをやってこの信用金庫が生まれたわけですから。今はかつてのような地域の連帯の強さは薄まっているかもしれませんが、金融機関に限らず、本当に必要なものは自分たちの手で作っていこうという動きはこれからも出てくるでしょう。そういう意味で、地域づくりと一緒に考えいく信用金庫に積極的な評価をしていただける時代であるのかもしれない。実際、一緒にやっていきましょう、という地域の方たちの思いは強くなってきたと感じますね。

芳賀 30年前の創立40周年記念誌に当時調査役の佐藤さんが書かれた懸賞論文「あすの多摩とコミュニケーション」というのがあって、興味深く読ませていただきました。

佐藤 よく見つけましたね(笑)。書いたのは30歳のときですかね。

芳賀 これは今の時代にも適応するんじゃないかなと思いました。

佐藤 当時は都市銀行が多摩地域に進出してきて、金融面でも昔ながらの地域社会が急速に解体されていました。われわれ地元金融機関としては戦略的にも地域意識を持った人が多くなければ優位に立てない。そういう地域社会を形成する条件としてコミュニケーション機能を果たそうじゃないか。そんな趣旨でした。今も単に企業が繁栄さえすればいい、そこからわれわれがプラスになればいいということではなくて、トータルな地域再生ということが大事だと思うんです。その意味でコミュニケーションということはとても重要です。地域経済、文化……トータルな意味でね。地域文化財団などの意義もここにあります。

芳賀 佐藤さん自身は、どうしてたましんに入られたの？

佐藤 就職先を探していたら、立川に住んでいた親友がこういうところがあると紹介してくれて、試験を受けたら受かった。堅い仕事は向いていないんじゃないかと思っていたんですが、入ってみるとけっこう楽しくて(笑)。先輩はよく飲み連れて行ってくれるし、お客さまのところに行くのも面白い。

芳賀 ご縁ですね(笑)。それに人というのは酒を飲んだりしながら育つんですよね。

佐藤 もちろん仕事で遅くなることも多かったんですが、とにかく11時前に家に帰ることはめったになかったですね。入ってすぐは国分寺支店で、おいしいホルモン焼きとか焼鳥屋さんがありましたよ。今もお祭りとか地域の行事に多くのたましん職員が参加しますが、昔は、それは預金を増やすためだったかもしれない(笑)。今はそういうこともあるけれど、地域のなかで役割を果たして、みなさんと一緒に盛り上げていくことが地域を良くしていくことにつながるという意識になっています。

芳賀 お金も大事かもしれないけど人間の幸福とか豊かさってそれだけじゃない。そういうことがバブルがはじけてしばらく経って、ようやくみんな気がついてきた。金融機関としては泥臭いことかもしれないけど、それは大切ですよ。お話しして思ってたんですが、「えくてびあん」も地域と一緒に、地域の良さを見いだそう、地域の人を発見しようということで20年やってきたわけですが、なんだか共通するところがあるんじゃないかな。

佐藤 そうですね。通じるものはありますよ。地域を見て、何気なく見ていたことがこんなに美しかったり、よくよく見れば魅力的なんだということは、地域を変えていくきっかけになります。とかく遠くて高いものが素晴らしく見えるけれど、足許にいいものがあるという意識は大事だと思いますね。そうすれば愛着も深まりもっと良くなっていく。司馬遼太郎さんがいるところで、生きていく上には共有するものがなくて、それが文化だと書かれていたと思います。文化という衣にくるまれることによって人間は心地よく安全に生きることができる。文化はそういうものとして地域に絶対必要なんです。たましんも『多摩のあゆみ』や美術館、ギャラリーと文化的活動をしてきましたが、続ける、ということは大切だと思います。本店のたましんギャラリーも2年先まで予定が詰まっていた、地域で認知していただいているということは、ありがたいです。

芳賀 昨年12月には「えくてびあん」も関係するTMM JAZZコンサートがたましん本店会議室で開かれましたが、こういうことも続けていけるといいですね。同じ地域で活動させていただいている立場として、これからもよろしく願いいたします(笑)。

うなぎ しら澤	曙町1-9-21 524-5061
有限会社 久住不動産	曙町1-16-2 522-4739
みずほ銀行 立川駅前支店	曙町2-4-6 522-5151
みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
フロム中武 1F受付	曙町2-11-2-1F 524-7111
輸入文具 ホワイトハウス	曙町2-11-2-4F 525-8558
ステンドグラス ぱさーじゅ	曙町2-11-2-4F 522-1941
スバゲティー専門店 はしや	曙町2-11-2-4F 528-2338
立川リージェントホテル	曙町2-11-7-2F 522-1133
フランス風家庭料理 ラ・フランス	曙町2-11-8-6F 529-5522
ビックカメラ 立川店	曙町2-12-2 548-1111
Wine & Dining るもん	曙町2-12-13 527-3022
東京三菱銀行 立川支店	曙町2-13-3 524-4121
ヤマハ 立川センター	曙町2-17-3 523-1400
カフェ アバン	曙町2-17-15-2F 527-4479
トボス 立川店	曙町2-18-18 525-0331
55DPE Station トボス立川店	曙町2-18-18-B1F 528-7558
三井石油 フロンティア立川	曙町2-19-9 527-3943
手打ちそば しえもと	曙町2-20-5 529-5468
溪流魚菜料理 一竿	曙町2-22-23-B1 527-3640

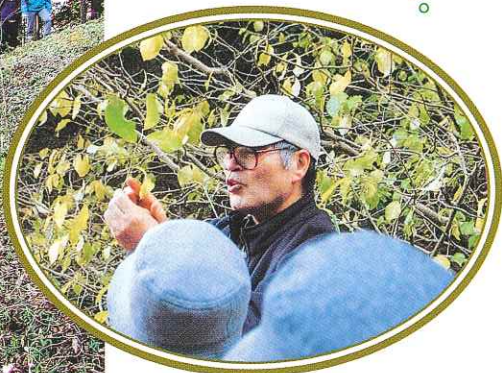
えくてびあんの輪
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今日は曙町・高松町のお店です。

洋風居酒屋 赤い靴	曙町2-25-4 527-6480
園部肉店	曙町2-28-16 522-2901
串やきと牛たんの店 JEAN	曙町2-32-14 529-6210
立川市女性総合センター アイム	曙町2-36-2 528-6801
三田花店 立川高島屋店	曙町2-39-3-1F 526-4187
エミリーフロアゲ 高島屋立川店	曙町2-39-3-3F 526-9788
立川高島屋 サービスフロア	曙町2-39-3-7F 525-2111
オリオン書房 ノルテ店	曙町2-92-43-3F 522-1231
ジェイティービー 立川支店	曙町2-92-43-8F 522-5550/5585
和菓子郷 花奴万葉庵 工場売店	高松町1-22-8 0120-398785
多摩画材 (景品交換所)	高松町2-1-25 522-6031
丸助青果店	高松町2-4-18 522-3542
スーパー やなぎや	高松町2-5-17 522-4322
米穀・食料品 横町屋	高松町2-11-23 522-2609
山梨中央銀行 立川支店	高松町2-16-13 526-1571
レストラン 榎	高松町2-22-2 526-2276
ふじ整体院	高松町2-25-2-2F 540-9155
OBANZAI-YA 茄子菜	高松町3-14-2 521-2918
書籍・雑誌 フレンド書房	高松町3-18-2 527-1555
活魚割烹 きよみず	高松町3-19-2 526-3885



シモバシラを観に来る登山者も多い



案内は守屋龍男さん

VIEW

冬に華咲く自然の妙

高尾山のシモバシラを観る

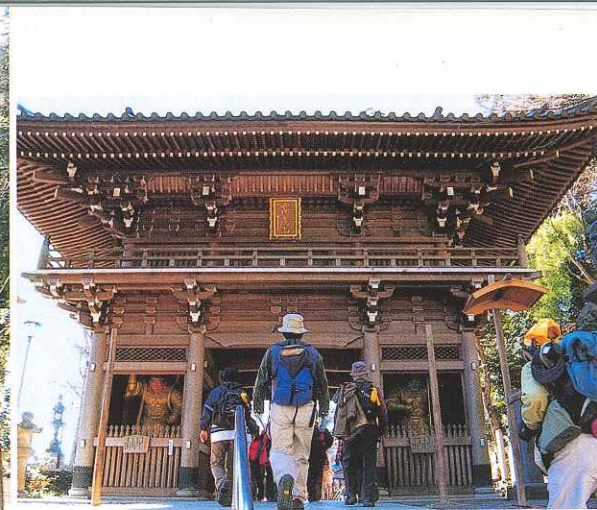
シモバシラ（霜柱）という風雅な名を持つ植物をご存じだろうか？
秋ふつうの花がつくシソ科の草だが、
冬、風のない寒い朝、枯れた茎から内部の水分が氷の結晶に成長し純白の華を咲かせる。
自然の造形の妙というべきシモバシラを訪ねて冬の高尾山に登った。

案内してくださったのは多摩の低山について著書も多い立川市在住の守屋龍男さん。守屋さんが世話役をする多摩地区自然観察研究会のメンバーと、立川を中心にした登山グループ「山守会」の総勢約20人が参加した。

うっそうとした杉並木の参道を薬王院へ。さらにコナラ、クヌギ、ブナ、イヌブナがすっかり葉を落とした明るい登山道を山頂（599m）まで。そこから北斜面に少し下ると、斜面のあちこちに、小さな白いく華が咲いている。

12月中旬から1月中が見頃だが、気温や風の状態によってできなかったり、暖かくなればすぐに融けてしまう。「氷のリボン」「氷の花」とも表現されるが、自然のいたずらとしかいえないような形、形、形。参加者から歓声ともため息ともつかない声ももれた。

シモバシラのほかにも、あちこちに落ちている長い綿毛のついたテイカカズラやキジョランの種、地表に目立たない花を咲かせるカンアオイなどの植物、枝を飛び回る小鳥たち、ムササビが杉の幹に作った巣穴……守屋さんの案内で、冬枯れの山に豊かな自然の発見がいっぱいの日だった。



高尾山薬王院は初詣でもにぎわう名利

氷の華の形は実に多彩で玄妙



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩ではこ
ネット

http://www.tamatebako-net.jp/

多摩ではこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.jp

常楽我浄

真如苑提供番組組じょうらくがじょう

スカパーフェイクTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十八年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

たましん おかげさまで70周年



すべては「お客さまの幸せづくり」のために。
70周年を迎えたくたましんを、
これからもよろしくお願ひします。

多摩中央信用金庫 http://www.tamashin.jp

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
TEL 042-527-1948
FAX 042-527-1911
E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

師走の夜空に
ジャズが流れる



10月のクラシックコンサートに続き、TMM (TOUCH Music Music実行委員会) 主催のジャズコンサートが12月9日多摩中央信用金庫本店で行われました。ふだんは会議に使われる部屋もぐっと雰囲気を変え、すっかりクリスマスモード。3年連続の出演になる(土井孝幸 presents 古川奈都子スペシャルカルテット)は、おなじみのクリスマスナンバーも交えニューオリンズの香り豊かに熱演。会場は大満足でした。休憩をはさんで、二部ではさらにパワーアップし、第一部にトランペット、トロンボーン、テナーサクソを加えた(下田卓&カンザスシティ・バンド)。外は北風、心はホットな一夜でした。ジャズを聴くならやっぱり立川です!

今年も吉例
〈ベスト立川人・展〉開催

新春恒例のえくてびあん〈ベスト立川人・展〉を今年も開催いたします。この一年えくてびあんに登場した人、輝いた方たちを一挙紹介する写真展です。毎号表紙を飾った立川人をオリジナルプリントでご覧いただく(写真家・細江英公『えくてびあん表紙の人・展』)も同時開催。えくてびあんで選んだ「この人」たち。人がいて、立川は今日も元気です。

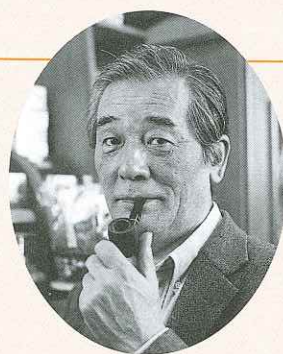
◆第19回『ベスト立川人・展』
平成16年2月10日(火)～15日(日) 午前10時～午後7時(最終日5時) 会場 立川市女性総合センター・アイム1Fギャラリー



この人この店 ⑦

TOBACCONIST
ゼフィルス

店主 國峯 一さん



微かに甘く落ち着いた香りが木調の店内ディスプレイとあいまって、なにかしら懐かしい気持ちになります。「きっと葉巻やパイプたばこの香りでしょうね」とたばこの種類を説明してくださる國峯さん。お母さんの代からのたばこ屋さんです。若い頃、蝶を追いかけ遠くインド、アフガニスタン、イラクまでバイクで旅したといいます。お店の名前もシジミ蝶の仲間の総称。コレクターだからたばこもコレクション、持っていないたばこは気になってしかたがないそうです。嫌煙が進むこの時代、肩身が狭くないですか? 「もともとぜいたくな大人の嗜好品。主体性をもって楽しむものなのに大量生産、大量消費で吸わされてしまっているのが現状です。優雅なゆとりの時間を楽しめるたばこですから、提供できることに喜びを感じています」。奥様もたばこを吸われる? 「いやあ、不思議なものでね、女房にだけは吸って欲しくないんですよ」—そう言われると、なぜか嫌煙家でも納得してしまうから不思議です。



〒190-0012 立川市曙町1-28-9
TEL 042-524-0514
営業時間 平日 10:00～21:00
日曜 12:00～18:00
年中無休



たばこが並ぶ店内



写真: 五来孝平

夕チカワ誰故草 ⑦

「薄情息子」と母は言う

森 忠明

細江英公氏の「銀座の乞食の母子」という写真を見て思いだすのは、五十年前、私が立川二小一年生のとき、通学途中に目にした母子? 乞食の姿である。

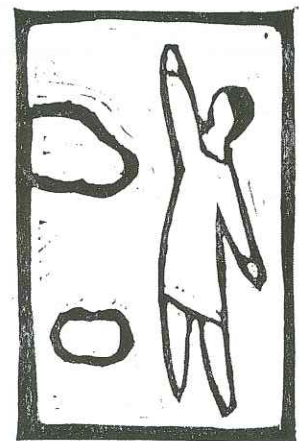
今の曙橋交差点、NAITOO 靴店寄りに黙座していた。母であろう人は三十ちよいで、女の子は私と同年ぐらいだった。ラグも窮まる身形なのに、少しも卑屈な感じがせず、宮澤賢治作「蛙のゴム靴」の主人公みたいに、悠然と雲見をしているかのような、どこか貴族的な相貌。学校嫌いでマザコンだった私には至極うらやましい境位なのだ。

それから四十六年後の二〇〇一年六月。実に久しぶりに女乞食というのを見た。所は伊予松山の街道。言はばギンザ通りのどまんな中。

「死に場所は温い四国、日本一人情の篤い松山がいい」

生前、そう語った俳人・種田山頭火の「つひの栖」一草庵を拝みに出かけたのだ。

五十過ぎか、蓬髪瘦軀の女性物貰いは、ほぼ終日(私の朝の散歩のときから一草庵帰りの夕方まで、高級ブティックの前で)うつむき正座していた。私が感動したのは、彼女の忍耐もさることながら、彼女を追い払ったりしないブティックの人や松山市民のことであった。やはり山頭火の言う「おれだ、と思ひ、「俺んこの夕チカワも、ここの程度の人情はあるぜ」と呟いたが、さてどうだろう。



挿画: 野崎義成

優しい松山市民や、亡き母を追慕する山頭火と比べて、愚母を介護していた頃の私は非情だった。

三年前、母は七十七で死んだものの、父も倒れていて要介護。一人息子で貧乏文士の私には「負えりゃあせんもの」(長門勇氏の名セリフ)状態である。年寄りの親一人を年寄りの一人子がケアすることを老老介護というなら、あの二親ケアの日々は「地獄の老老介護」——呪うべき時間だった。

「おまえは薄情だ……」

末期のまなざしで母は言った。シモの始末も食事の世話も、精一杯やっていた私は頭にきて、ベッドの脚に大きな蹴りをいれた。母が骨になってから、小川宏氏とマルセ太郎氏の介護体験記を読んだ。二方とも惚けた母堂を殴ってしまったことを告白しておられたので落涙した。

山頭火が十一歳(一八九二年)の春。彼の三十三歳の母は女癖の悪い夫に悲歎。井戸に飛び込んで死ぬ。全身紫色になってしまった母。その日から彼の晩年と漂泊が始まったのだという。

若い母に、そんな死に方をされるのも辛いだろうが、「我を生みしはこの鳥骸のごときもかさればよ生れしことに黙す」という齋藤史氏のようなのも辛い。

一草庵の管理者にあててか、玄関のガラス戸に、一片のガス料金請求書が差し込まれていたことも、なにがなし侘しいのだった。

表紙の人

草野忠正さん(富士見町)

立川市防衛協会会長、立川商工会議所副会頭……と数々の要職、肩書きを並べるより、立川の街の多くの経済、地域活動になくてはならないおひとり、といった方がいいだろう。平成12年には、幅広い地域貢献によって勲五等雙光旭日章の荣誉も受けているが、80歳近くとは思えない元気の秘訣は「ある年齢になったら他人さまのために働くこと」とおっしゃる。日々これ奉仕の精神で、ますます充実かつ多忙。

富士見町「ホーミー」にて
写真: 細江英公

かたこと

本号がお手もとに届く頃は寒のまっさかり。一年中でいちばん寒い頃ですが、2月ともなれば節分、立春と春の足音が次第に高く聞こえてきます▼里では梅やサンシュユ、山にいけばマンサクが他にさきがけて花を咲かせているでしょう。夜明け前の闇が深いように、春の訪れ前の厳寒があるから山笑う時期の喜びはいっそう大きいのにちがひありません▼えくてびあん流にご案内した通り、2月10日からアイムで吉例くベスト立川人・展を開催いたします。今年もどんな立川人に出会えるか、春の訪れのようにワクワクします▼寒さのなかでも自然は新しいのちをたくみ、来るべき春のために静かに力を蓄えています。裏表紙の知久正義作品から伝わる万物の生命感、多摩川さんぽの野鳥を訪ねる方々、VIEWでご紹介したシモバシラ。寒空の下にいきづく、いのちの温かさをお伝えできていでしょうか?▼対談をお願いした佐藤浩二理事長の多摩中央信用金庫は昨年12月、創立70周年を迎えました。ひとくちに70年といいますが、昭和恐慌後の時期から戦争をはさんで今日までの歴史はやはり重い。昨年20周年のえくてびあんも、まだまだがんばらねば! (芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中葉子
デザイン ウォーターデザインソシエイツ 池田隆男
AMNET design factory
写真 五来孝平/中村 伸/宮保大輔

えくてびあん ⑦ 2月号

第22巻 通巻231号
平成16年2月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敬博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。



「多摩川畔」

2001年 100F

土曜、日曜日には釣人でにぎわうたつぴ橋の付近を描いている。平凡な場所だが、春夏秋冬を通じて足を運んでみると愛着がわいてくるものだ。

アニメイズムではないが、川風のなかに身を置き、冬枯れの多摩川を五感すべてでとらえると、すべてのものに生命がやどり、互いにささやきかけてくるような気がしてくる。

穏やかな冬の日、川原は美しい水際を形成していた。視線を足許に向けると、かすかな川風が、水際に光を放っていた。

光を吸収したみずみずしい砂地には、鳥の足跡がかすかに浮き出していたことを思い出す。